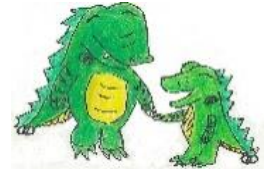




和邇小

ニューズレター

NO.3



2023.6.1 文責 加藤



2年ほど前のコロナ禍真っ只中、和邇小では、SNSやゲームなどインターネットを通じたトラブルが増加しました。その後、少し減ってきたものの、最近また、ネットでのトラブルを耳にすることが増えてきました。

ゲーム中ボイスチャットできつい言葉を言い合っただけで傷つけ合う、パーティー（仲間）に入れてもらえない、持っているゲームのスペックで相手を蔑むなどトラブルの種類は多岐にわたります。

面と向かって話さない分、字だけのコミュニケーション、音だけのコミュニケーションでは正しく伝わらず、誤解が誤解を呼び、こじれていくこともあります。

トラブルには至っていませんが、SNSで会ったことのない遠くの友達と繋がっていたり、tiktokに投稿したり、メルカリを利用したりとトラブルに巻き込まれないかと心配になる要素はあちこちにあります。

SOSを発信できた児童は聞き取り指導できます。しかし、見えにくいネットの中でSOSを発信できずに辛い思いをしている児童がいるかもしれません。

学校としては、トラブルにならないように理論として知識として教えることはできても、実践は各家庭になります。**ネットトラブルを未然に防ぐのは保護者の役割です。**

7月12日(水) ②③校時に専門家を招き、**1学年対象にネットモラル授業を体育館で行う予定です。1年から6年までの全保護者も対象**です。昨年度も本校に来ていただいた篠原嘉一氏です。本当にわかりやすく具体的に教えていただけます。2校時は45年生、3校時は6年生です。どちらで聞いていただいても構いません。

5月12日に案内の文書を配布しました。今のところ申し込みは全家庭の5パーセント以下です。**※切は6月30日**なので仕事の調整をしてくださっているのかもしれないと思いつつ、もし、ご都合がつくようであれば、参加していただくことを強くお勧めします。

申込用紙がなければ、連絡帳や電話で参加の旨をお知らせしていただいても構いません。ぜひ、参加をご検討ください。小さなお子様連れもOKです。

私は、担任をもっていません。だから、毎日学校を回っているいろいろなクラスにお邪魔してみんなが頑張っている姿を見せてもらっています。

低学年は、教師の問いに勢いよく挙手し、「学ぶことが楽しい！間違っただけで平気！チャレンジするぞ！」といった様子が伺えます。しかし、学年が上がるにつれ、その空気は小さくなっていきます。高学年になると「これであっているかな。間違ったら恥ずかしいな。私より上手な人、賢い人はいっぱいいるし・・・。」なんて心の声が漏れ聞こえそうな空気を感じることがあります。自分に自信がないのかな？と思うことが多いのです。つまり、高学年になるにつれて自己肯定感は下がっているように感じるので。

そこにはきっと「9歳の壁」(10歳の壁ともいう)の存在が大きく関わってくるでしょう。文部科学省は、この時期の子ども達について以下のように述べています。

“対象との間に距離を置いた分析ができるようになり、知的な活動においても文化した追及が可能となる。自分の事も客観的に捉えられるようになるが、一方、発達の個人差も顕著となる(いわゆる9歳の壁)。身体も大きく成長し、自己肯定感を持ち始める時期であるが、反面、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。”

自分を客観的に見られるようになってきたからこそ、他人と比べて劣等感をいだくことも増えてくるのでしょう。例えば、自分は絵が上手だと思っただけで、他人と比べ自分なんか・・・と自信をなくしてしまうなんてことも。そんなことにならず、「もっと上手な人もいるけれど、私は絵が好き。それは誇らしいことなんだ。」と思えるよう、私たち大人ができることはなんでしょう。

その一つは、成長するにつれ、他人と自分を比べ劣等感を抱くことは自然なことであることを理解し、**自分自身の成長に目を向けさせ気づかせてあげる**ことなのではないでしょうか。

学校でも家庭でも、一人ひとりを認めることで、自己肯定感をのばしていく環境を作っていきたいものです。

